



誠・力・光

平成27年 4月16日

練馬区立北町中学校

学校だより 1号

《それぞれの素晴らしさに気づこう》

校長 赤木 宏行

自分の欠点や失敗に気づき、「どうせ私は」と投げやりな気持ちになることが誰にでもあります。また、友達を一つの側面だけから見て、安易に「ダメな人」とか「劣っている人」と評価していませんか。

金子みすず という人のこんな詩があります。

『私が両手を広げても、お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、地面を早くは走れない。
私が体をゆすっても、きれいな音はでないけど、
あの鳴る鈴は私のように、たくさんの歌は知らないよ。
鈴と小鳥とそれから私、みんなちがって、みんないい。』

やさしい言葉の詩ですが、とても深い意味を持っていると思います。小鳥、鈴、私の違いとよさを認めているだけでなく、もっと深いところで、「小鳥が飛べること」への「すごいなあ」という尊敬の気持ちを持ったのではないのでしょうか。そして、鈴にも小鳥にも私自身にも、他にはない素晴らしい力があることに気づき、うれしい気持ちがわいた思いを表現しているのだと思います。

それぞれに素晴らしい力があるのだということを忘れずに、人や物に接していききたいものです。この気持ちは、感謝や尊敬、思いやりを大切にする気持ちとなって、言葉遣いや礼儀の正しさに表れ、お互いに気持ちのよい生活の実現に、結びつくものです。

私たち人間はこの世に生まれ、育ち、そして生きていく中で、互いに協力し、支え合うことの大切さを実践してきました。そして集団生活に大切な相手の立場に立って考え、行動する「相手を尊重する態度」についても、一人一人の生き方に結びつけて数多く学んできました。

人には安心して生活でき、心が安まる場所がどうしても必要です。そのためには、常にその人の立場に立って考えたり、判断したり、行動することのできる人にならしてもらいたいと願っています。

その意味で平成27年度のスタートにあたり、ぜひ大勢の人々と接する機会を進んで持ち、心豊かな人々とのふれあいを体験してもらいたいと思います。

